

ローマの俳優(上)

登場人物

ドミティアヌス帝
パリス 悲劇俳優
バルティニウス 皇帝に仕える奴隷あがりの側近
エリウス・ラミア
ステイファノス
ユニウス・ラスティクス
アレティヌス・クリメンヌ 皇帝の腹心の司法官
エソプス 俳優
フィラグウス 富裕な守銭奴
バルフィリウス・スラ 元老院議員
フルシイニウス 元老院議員
ラティヌス 俳優

フリリップ・マツシンジャー作
山田英教訳

アスクレタリオ 星占い師
セジエイウス } 陰謀を企む男
エンティリウス }
ドミティア ラミアの妻
ドミティラ 皇帝の従妹
ユリア テイトウス帝(皇帝の兄)の娘
カエニウス ウスパシアヌス帝(皇帝の父)の愛人
三人の護民官
二人のリクトル(先駆け役人)
百人隊長、士官たち、兵士たち、見張り人たち、
捕虜たち、絞首刑執行人たち、召使いたち

第一幕

第一場

パリス、ラティヌス、エソプス登場。

エソプス 今日の出し物は何だ？

ラティヌス アガウエーの狂乱の場だ、ペンティウスの血塗れの最後までな。

パリス どの芝居だつて同じさ。世も末だなあ。木戸銭のありつただけでも一日の仕込みに足がでる。悲劇も喜劇も我々はギリシアから引き継いだものだが、皮肉にもギリシアの教えが高貴な方々の家には残っていて、こちらの足をひっぱる。ポンペイが造つた、ローマの誇る大コロシウム、一日に数千もの観客の目と耳を樂しませてくれたものだが、今はどこぞの砂漠のよう、人住まぬローマの都のごとく、見捨てられたままだ。ラティヌス 下品な遊びだけが我が世の春か。役者をさげすむ連中たちも、淫売宿でもできぬような淫らなことをこつそりとお楽しみだ。我々ローマの市民のなかでも、いや、華やかなトーガをまとつた元老院のお

歴々のうちでも、最も口やかましいお方でさえ、八人の奴隷が担ぐ輿に乗つて小便臭い淫売相手の病氣買いを、手ごろな買物と思つておいでだ。

パリス なのに我々には小銭さえ惜しむとくる。樂しみと共に教訓を与え、観る者の心を健やかにし、良き素晴らしきものが栄光に包まれるさま、醜く悪しきものの恥辱に塗れる姿を、舞台にありありと映し出す我々役者に喜捨はなしか。

エソプス なあ、パリス、利にあくせくし金目当てに雇われる奴らは、我々より下衆な奴らさ。皇帝のご寵愛をお前が頂いているかぎり、こちらもおおほれがたっぷりと回ってくる。あさましい真似をせずとも俺たちが飢えることなぞありはせぬ。

パリス 我々の望みは名をあげ、後の世まで名を残すことだぞ。

ラティヌス お偉方の許可さえあれば、我々の野心も達成されるのだが。

エソプス 敵がいるぞ、しかも、強敵がな。最近知つたのだが、司法官のアレティヌス、皇帝の腹心の一人だが、この御仁が宴席で公言したそうだ。俺たちの演じた喜劇で虚仮にされたと逆恨みし、この月の終わりに

でに俺たちを根絶やしにすると。

パリス あの男にあいな頼みはすまい。唯一の頼みは、ドミティアヌス様がすぐにもご帰還になり、あの男の不正を正して下さることだ。我々はドミティアヌス様の氣鬱をお慰めしたものだつたが。

ラティヌス 市中の噂では、皇帝は北の蛮族を征服して近いうちにローマに凱旋なさるそうだ。

リクトル二人登場。

パリス ああ、一時も早く！——何か用か？ エソプス、俺もあの男の脅しが気になる。

リクトル1 本日、元老院に出頭すべし。

リクトル2 身の潔白を証しだてること。

パリス 承った。よし、受けて立とう。無実は強しだ。

舞台では古の英雄、王侯貴族の滅びゆくさまを、拍手喝采のもとに演じてきた我々だ。己れを演じる時こそたじろがず、自信をもって演じきるのだ。判決がどうあろうと遊び心で受けとめよう。有罪になろうと涙なしに聞くぞ。明日を信じる丈夫の心意気で。

リクトル1 あなたらしいお言葉。

エリウス・ラミア、ユニウス・ラスティクス、パルフィリアス・スラ登場。

ラミア パリス、どこへ行くのだ？

リクトル1 元老院の召喚です。

ラスティヌス 国政にたずさわる方が、天下泰平でなすこともなく、我々ごときを相手に時間の浪費とはありがたいことで。

パリス 皇帝や属州の重大事が決定される、あの政治の場が、詩人の筆先から滴りおちた、苦い言葉、くすぐりの言辞の検閲の場にまでなりさがるのか！ 皆様にはお心安らかに！ 皆様が無事で何よりです。

（リクトルたち、パリス、ラティヌス、エソプス退場）

ラミア 何という世だ。ローマも墮ちたものだ。自分一人の時だけしか、密告者の耳を恐れず、皇帝や祖国について想いのたけを自由に語ることもできぬ。

ラスティクス そう、不穏なご時勢だ。いたるところ悪事の氾濫、わしらは夜もおちおち眠れぬ、いや、夢も見れぬさまよ。わしらの行動すべてが疑いの的だ。高貴な家に生まれたことが、今では犯罪になりおる。人

望あることが反逆罪となる。息子が父を訴え父が息子を刺す。宮廷のお偉方の憫笑を買わんと貞女も操を捨てる。徳高きことは罪なのだからな。皇帝に媚びる連中、皇帝の欲望に仕える輩だけが安全なのだ。

スラ おっしゃるとおりだ。ご立派だったウエスパシアヌス帝から正反対の資質をもった王子二人が生まれたこと、わしには不思議でならぬ。兄君ティトウス様は男の鑑と称されたお方、ご自分の善政の施しを受けぬ民があるやもしれぬ、そのような日が一日でもあろうかと心を痛めておいでだった。反逆者の処刑にも涙されたお人。驕慢にはほど遠く、ローマの貧民とも親しく語を交わされていた。

ラミア だが、弟君のドミティアヌス様、今この国を統べておられるお方は血を見るのがお好き、カピトリヌスの丘へ行く路、テーベレ河のほとりに死体が曝されぬ日は一日とてない。臣下は貴族を侮る。あの方ご自身が、ご自分の身体が人の身体ではないかのごとく、人間であることを忘却なさっておいでなのだ。

ラスティクス あの方が成人の暁にどうおなりかはご幼少の頃より明らかだった。少年の何よりの慰みが尖ったピンで蠅を突き刺すこととはな。今では蠅の代わり

に人間だぞ。大敵ウィテリウスとの戦で無事だったのを祝ってジュピターの社を建てたはよいが、あつかましくもジュピター像の胸に己れの像を抱かした。昨今、勅令には皇帝の称号では不足だとばかりに、「主にして神」なるドミティアヌスと記して少しも恥じぬ有様とのこと。

スラ 皇帝はローマ帰還の途上にて凱旋行進なさるとの情報が入った。弱腰の元老院は「主にして神」との称号を許容したし、今逆らえば数々の拷問の後に死刑に処せられよう。わしとしては、時の流れに従うまでかと思っておる。奔流に棹さすのもむなしいかぎりだ。ラスティクス 元老院に赴くでしょう。強いられる前に本意でも票を投じるとするか。

ラミア 剛毅の精神もあぶなくて表に出せぬとすれば、内に秘めて動くのだ。国家は今病んでいても、神々を友としているかぎり、悪くとも回復の兆しありと確信してな。

(退場)

第二場

ドミティアと書状を手にしたパルティニウス登場。

ドミティア わたしごときに丁寧なこと。

パルティニウス 奥方様、当然のこと。皇帝のお妃となられます貴婦人には臣下がいたさねばならぬ礼儀。と申しますのも、お喜び下さいませ、日輪のあたるものすべてを治めるお方様があなた様の僕しもべとなられます。そう驚かれずに、身のご幸運を大切に下さいませ。皇后に付随する地位、権力、名譽をとくとお考えを——いえ、皇后という御名もやがてはあなた様のもの。この下僕をまだお疑いで。まずは、皇帝自ら認められご署名なされたこの書状をご一読下さいませ。疑惑や妬心は消え失せましよう。この世の美しきものすべてがあなた様に跪き、ただ今のそれがし同様に元老院の諸侯もあなた様の幸せなおみ足にくちづけするのを名譽といたします際には、お願いがございます。あなた様が微笑まれるたびごとに立身なされ、ご領地を一族に分

かち与えるという時には、何卒、パルティニウスめもお忘れなく。

ドミティア お立ち！ 夢のようなお話でにわかには信じられませぬ。パルティニウス殿、皇帝が、いえ、この世の神がなによえ、卑しい端女はななめにお目をとめて下さいましたのやら。

パルティニウス この美しさゆえにです。造化の神が女性メリスの美しさの結晶として、あなた様を世にも稀なものに造られた時、造化の神はあなた様を最も高き地位に相応しいようにと計られたのです。それがしが、どれほど心をこめてあなた様の美德を話題とし、良きお心ばえを讃えたかはあえて申すまい。それがしがあなた様に尽くしましたご奉仕を、ほのめかす嫌味がございましょうから。皇帝にあなた様のお話をする、いかに想いを募らせておいでだったかも申しません。それがしの言動は立派に報われております。お二人を結びつけることができただけで、幸せなのです。ドミティア 慎み深い方。お話のこと実現するのですから、あなたに感謝しなくてはならないのでしようね。わたしが自分の自由になり、染みひとつなく純潔で若さの盛りでありましたら、皇帝が、ありがたくも、好

意をお示し下されば、皇帝のお優しい抱擁へのお召しに、わたしは喜んで処女の誓を開け渡したことでしよう。なれど、今は人の妻、この身は自分のものでありませぬ。主人がおります。皇帝の遊び女なぞ、わたしの名譽にかけていやでございます。それに、主人ある身が皇帝のお妃になるなど、法はどう裁きますのやら。わたしには謎ですわ。

パルティニウス　すぐにでも謎ときを。権力がこうせよと迫れば法は黙ります。ローマは一つ、皇帝は一人とは誰もが承知のこと。ですから、皇帝の支配は無限、皇帝の快樂もまた無制限。つまり、皇帝の意志こそ千の理由になるのです。

ドミティア　わたしが同意いたしましたしても、無事にけりがつきましようかしら？　主人も元老院の議員、むきになる気性の人ですから。

ラミア登場。

パルティニウス　皇帝の恋敵になるとでも！　おいでになりましたな。おためらいは容易に取り除けましよう。ラミア　何と！　人目を忍んで！　我が家が女郎屋か！

宮廷では権勢ゆるぎなきあなたでも、妻との密会など許ませぬぞ。ドミティア、そなたのことは後ほどきつく——

パルティニウス　無礼な言辭、どなたに口をきいておられるのか。

ラミア　ご立派なことだ。

パルティニウス　あなたの妻ですと。皇帝の寵を得た女性、そのお方への敬意を忘れて手を触れれば死を覚悟なさることだ。あなたが天上の美酒のお毒身役だったのはまことに光榮、ただし今日からはお役ご免となつたのですぞ。

ラミア　これは異なおおせだ。妻が若く美しく、皇帝の勅許がないからとて、夫が妻の主人たりえぬのか？　この館ではわしが皇帝、わしのもは守りぬくぞ。家人はどうした？　あつかましくも姿を見せぬなぞ許せぬ——

パルティニウス　——ラミア殿、あなたには皇帝もあからさまに威はふるわれませぬ。それがしが皇帝のからくり人形。それがしが話すのではなく、姿は見えねど皇帝がこの口をとおして話しておられるのだ。

(足踏みする)

兵士を率いた百人隊長登場。

ラミア 家人はどこだ！ おお、わしを死に追い込むのか。
ドミティア 胸の内は、愛すればこそ危険は避ける、で
ございましょう。

パルティニウス あなたがお求めなのは命令だけの
ず。失礼だが皇帝のご意志を実行に移しますぞ。(書類
をつきつける) これはあなたと奥様の離縁状だ。もし
も、署名を拒まれるなら、ご自分の意志で署名する
ということがお嫌なら、妻の操を守るなどと自分勝手
申されるなら、あなたの血で署名させる連中がここに
控えていますし、それでも駄目なら拷問にかけてでも
署名して頂くまで。

ラミア こんな無法が許されるのか？

パルティニウス 己れは法を曲げる度量もなく、ただ非
合法を容赦する君主は下っぱの警吏も同然、国王の器
ではありませんな。異議がおありか？

ラミア 我が身のために弁ずる術は知らぬが、妻を深く
愛している。ああ、妻への愛と皇帝への忠節。

パルセニウス 署名なされませ。夫不能にして夫の務め
果たさず、それとも、夫狂人にして云々。そうでなか

ろうが、離縁の理由はそうしておきましょう。さあ、
急いで。別の危険も迫っていますぞ。

(ラミアが署名する)
お渡し下さい。ほれ、頭が高いですぞ。——奥様、こ
れであなた様は晴れて自由の身、ご自身のもの。

ラミア ドミティア、そなたも同意なのか？

ドミティア 人を支配する立場につけますのに、人に仕
える生き方は卑しい心根の表れと申すもの。わたしも
今や皇帝の妃、でもかつてはあなたの妻でした。今後、
あなたが宮廷にお超しの節は、(あなたの職務で可能な
らばですが)立派なお妃ぶりをお見せいたしましょう。
パルセニウス殿、ついておいで。ラミア様ご機嫌よう！

(ラミアを残して全員退場)

ラミア 暴政が人から正義を奪ってしまった。今はただ
神々の前に跪こう。神々こそ聖なる祭壇に祭るべきも
の。お祈りして神々にお願ひするのだ。掠奪された我
が妻が傲岸不遜なドミティア又スの命取りとなり、浮
気者のヘレンがトロイの王子に何の喜びも与えなかつ
たように、妻の抱擁がドミティア又スに快楽なぞ決し
て味わわせぬようにと。

(退場)

第三場

二人のリクトル、アレテイヌス、フルシイニウス、ラステイクス、スラ、パリス、ラテイヌス、エソプス登場。

アレテイヌス 議員諸侯、本日の会議が皇帝および国家に益するものでありますように。

二人のリクトル ご静粛に！

アレテイヌス 多数ご出席願った今次元老院会議の目的は、まずはローマの神々に感謝いたすことにある。神々は帝国繁栄のため、神々と同じく帝国を統べるお人を与えたもうたのだ。勇猛果敢にして、深い学識を持ち、徳高くして数えきれぬ美点を備える、かかる資質に恵まれた稀代の名君ドミティアヌス帝は古のローマの英雄にも優るお方。称賛の言葉は尽きることがない。善き人なら何人も疑う余地なし。あのお方には、敵将ハンニバルさえかたやローマの盾かたやローマの剣と讃えた、知将ファビウスの忍耐力、勇将マルセルスの勇氣がおりだ。いや、偉大なローマ人に比肩する長

所はまだまだある。ポンペイの威厳、アウグストウスの權威、アントニーの雅量、ジュリアス・シーザーの得た天運、カトーの決断力。美德の大海原でこの身は溺れんばかりである。約言するが、あのお方に善きローマ人の美点はあつても、彼らの悪しき点はすこしもありはせぬ。

ラステイクス へつらいの辞にはあらずじやな。

スラ 用心が肝要、見張られているぞ。

アレテイヌス さすれば、祖国の父に対して感謝の念あふれんばかりの息子として、我ら一同、父が恵まれた数々の祝福にこたえて、誠のご奉仕を捧げる請負人とならねばならぬ。となれば、父上の温情、お目こぼしに甘えのそぼる卑しき者どもにより、父上の御世が損なわれ傷つけられるのを黙過できぬのも理の当然というもの。

パリス こちらが狙いか。

アレテイヌス 悲劇役者パリスを呼べ。

パリス ここにおります。

アレテイヌス 前へ。芝居者の統領たるその方には、国家ならびに皇帝を誹謗中傷する者として、反逆罪の疑いがある。

パリス 嫌疑だけでは証拠になりませぬぞ。いかな理由で我々が罪ある者と？

アレティヌス その方らは、世の隠された秘密を探り、偽りの名を騙つて、触れてはならぬことを舞台であからさまにしおる。さらに、男女かまわず地位も才能もある人間をあげつらい、元老院の議員までも、あてこすりや苦々しくすぐりで庶民に嘲つてみせる。

パリス わたくしが、そう、芝居者の代表としてのわたくしが、ただ今のような誤つた非難を正すこともせず、詩人が喜劇として書き立派に喜劇として演じられても、その舞台成果をねじまげ誹るお人もいることを証立てねば、芝居者が厳しい非難を受けるのもむべなるかなと存じます。

アレティヌス 生意気な口をききおる。舞台におるつもりなのか？

パリス この世は全てが舞台、この場として例外ではありませぬ。わたくしは、自分たちの正しさを確信しております。皇帝にこそ——この尊称には王者のあらゆるものが集約されておりましょうが——裁判官としてご臨席願いわたくしの弁論をご聴取のうえ、お裁きを下して頂きたい。淫らな遊びにうつつをぬかし、時と財

を浪費する欲望に負けた男を舞台にのせること。人の手を渡り歩いた孤児が惨めな末路に終わるさまをお目にかける。蕩児のお手本を見せて、思慮浅い若者たちを遊びの道から引き戻すこと。女郎屋の罫や売春婦の手練手管をあざとく映し出す。このような芝居がお咎めの的となるのでしたら、快楽を断ち美德を生るの指針とする、聖賢が説かれた皆様方の金科玉条たるあの黄金の原理とやらが、火刑に処せられぬのは何故でございましょうや？

ストラ 性根の座つた弁論だ。

パリス 名誉を崇める心こそローマ帝国なる建物を今日の高さにした土台との考え。一方では危険・死という秋霜の厳しさに耐えるため、他方では華やかな活躍で得た栄冠こそ至上のものとするが故に、無垢の若者を野心の火で煽りたてるご指導。これらのことを舞台上で表現すれば、お国から褒美やお誉めが頂けるのでしたら、芝居者は哲学者と同じ称賛を得ても良いはず。哲学者はめつたに読まれぬ冷たい教訓で徳行の善なるを教示なさる。だが、心正しき偉人にならんとする火のような想い、燃ゆる血潮、血脈も破れんばかりの競争心、舞台上で示されたものには適いますまい。熱のこもつ

た舞台で名優が、十二の大業を果たし汗みどろで讃えられる英雄ヘラクレスの姿を演じてみせましよう。あるいは、勇将カミリアスがゴール人の侵入を防ぎ、金を発見してローマを再建した故事を。はたまた、勝利の後に敗者カルタゴに賠償を課す名将スキピオを。観客がこれら英傑の危険と栄光を目のあたりにし、榮譽を共に分かちあうよう、舞台で真に迫って演じられれば、ローマ人の誇りをいささかなりと持つ観客なら日常のつまらぬ業は擲ち、舞台で目にする英傑たちと同じくありたいと切望するでしょう。

ラストイクス お偉方も感じ入って何やらひそひそ話だ。

パリス なのに、芝居者は若者を墮落させ、高官を誹るとの非難を受けている。舞台上に悪人が登場すれば必ず罰せられている。邪な企みが世にはびこるからとて、世人も誤った道を歩むべしとそそのかしたこともない。リジア人の贅沢、コリント人の毒薬、ペルシア人のへつらいをお見せしても、劇の終わりにはこれら全てが断罪されるから、阿諛、驕奢を良しとしていた観客も心あらためて家路につく。さらに、地位高き方々を誹謗中傷、隠された秘事を世にあばく云々、これら

のことには、芝居者は生まれながらの聾啞者と同じ、一言たりと発した事実はない。父存命中は意のごとくならずと、慈父の命を断たんとする息子も舞台にのせる場合もある。観客のなかに、自分も同じだと良心の呵責を覚える者がおるかぎり、その芝居をうつ意義がある。また、飽くなき欲望を満たしてくれる情人から莫大な金をせびり取り、本妻の子供を餓えに泣かせる、放縦な姦婦を登場させることもある。財産、生まれ、地位に恵まれたにもかかわらず、このような忌まわしい畜生なみの罪を犯したご婦人が、劇を観ている「この主人公はわたし」と泣き叫ぶこともあるなら、その芝居をうつ意義がある。はたまた、数えきれぬ富、大鷲として一日では飛翔できぬほどの広大な領地の持ち主、されど心貧しくして己れの日々の糧さえ惜しむ強欲者をお見せする時もある。元老院議員とはいかずとも高位のお方が舞台の強欲者を目にして深く感じるところあるとすれば、その芝居をうつ意義がある。時には、事件の真実を見ずにえこひいきで判決を下す悪徳判事も現われる。かかる判事が一人よがりの判断で同じ派閥の悪人を許し、無実な者を有罪にしたらどうなりましょう。ここにお集まりの諸侯のどなたでも、い

え、皇帝不在の際はそれが代官ともいうべきアレテイヌス様こそ、今までに演じられた芝居と舞台で意図されたことどもを胸に呼び戻して頂きたい。皆様自身のお力で。申し上げることはこれまでです。もはや断はつきましたでしょう。罪ありとされるか、それとも拍手をもって芝居者を解放なさるか。

ラテイヌス 見事な申し開きだ、良くやった！ 弁士の役はこれが最初だが。

エソプス 当대きつての弁護士レグルウスに二十倍の弁護料を払つても、こうはいかなかつたぞ。

(内部で叫び声)

パルティニウス登場

アレテイヌス 何の叫びだ？

パルティニウス 征服地を我がものとされた皇帝が、威風堂々ご帰還なされました。

フルシイニウス さあ、急いでお迎えに。

アレテイヌス これにて散会。本日的一件、裁きは皇帝におまかせする。

全員 皇帝万歳！

(退場)

第四場

ユリア、カエニイス、ドミテイラ、ドミテイア
登場。

カエニイス お下がりにさい、そこはわたしの席。

ユリア あなたのお席？ わたしは前帝ティトウス様の
王女、皇帝の姪ご。わたしより上座に着く人はおりませぬ。

カエニイス 世が世ならこちらが目上のはず。わたしはお祖父様の寵を得た者、ですから礼は尽くして頂きましょう。

ユリア あなたはお祖父様の夜の伽ぎをなさっただけの方。

ドミテイア どちらにもお味方できません故、口争いをお止めするには、失礼ながらわたくしがご案内いたしましょう。

ドミテイラ まあ、あなたが！

ドミテイア はい。いずれ皆様もわたくしの意を乞うて跪くこととなりましょうから。

ユリア どうして宮廷の貴婦人がまたひとり増えたのかしら。

ドミティア くやしくともすぐに分かりますわ。皇帝が誰を愛しておられるかお分かりの時には、後悔先にたらずで、さぞや羨ましくお思いでしょうに。

ユリア お後はじっくり拝見しましょう。

一方の戸口より、月桂冠をかぶった士官たち、凱旋の戦車に乗ったドミティアヌス帝、パルティニウス、パリス、ラティヌス、エソプス登場。他方の戸口より、アレティヌス、スラ、ラミア、捕虜を引き連れたフルシニウス登場。

皇帝 余は今、人が達する栄光の頂きに立ちこの聖殿に凱旋してきた。この勝利に輝く腕でもって運命の嘲りを甘受させ、祖国ローマの奴隸として連行した囚われ人に悲惨の極みを味わせしめよ。牢獄に引き立て、かここで余が斧の切れ味を身をもって感ぜせしめい。

(捕虜を引き立てて士官たち退場)

ラストイクス 血まみれの登場だ！

皇帝 良き君主ありてこそ臣下は幸せと広言すれば、諸

子の忠節余が美德を損なうやもしれぬ、また嫌味にも聞こえようというもの。さらに、余が麾下の力を借りず余自ら陣頭に立ちて、いかに帝国の領土を拡げたかも自証するは耳ざわりであろう。数々の戦役で余が軍兵がいかな恐怖を克服したかの談義も、世界の覇者たる余が口よりは、かのプラウタス描くところの「ほら吹き兵士」の口にゆだねた方がよいであろう。

スラ 何の、ご自慢話には聞こえませぬ！

皇帝 余が征服したダキア人、さらには目も褐色のゲルマン人、この名をあげただけで、ジュリアス・シーザーの亡霊も羨望でさらに蒼ざめ、父王ウエスパシアヌス帝、兄ティトウス帝の偉業も色褪せたものとなろう。敵然たる事実父と兄、余の立場を変えてしようたのだ。諸子が差し出すどんな名譽も余には不足。余が野望とされては迷惑だが、諸子が感謝の念をこめて称してくれるなら、「主にして神」、この称号こそが余には相応しかろうぞ。

アレチイヌス 感謝のお印に、全ての点で至上の捧げ物こそ皇帝には相応しいかと。

皇帝 アレチイヌス、嬉しく思うぞ。いつまでも余のために尽くしてくれ。——女神ペロナの夫、飢餓、流血、

死を従えた軍神マルスも、天運によりローマの地から彼方トラキアへと追放された。だが、マルスとて己れが剣で土地を耕し諸子の繁栄という収穫を得たからには、平和の味を堪能するも至当であろう。さて、諸子の秘蔵する寶石を皇帝に献上するは惜しいなどと思いつ上がった忘恩の徒、礼節の敵は諸子のうちにいるはずもない。

スラ 我らの全てを――

ラミア 自由も――

フルシイニウス 愛児とて――

パルティニウス 全財産なりと――

アレティヌス この身を。喜んで足下にひれ伏しましよ

う。

ラティヌス へつらうにもほどがある。ローマのお歴々がこのざまか。

皇帝 さすれば、余が諸子への愛も告げねばならぬ、つとに諸子にはお気づきではあろうがな。(女性たちに)百花繚乱のおもむき!この手にくちづけする栄を得られよ。かく頭上にかざせば百雷も従わせる手だ。なれどご婦人方には泰平を約する手もある。姪のユリア、父王の愛でられしカエニウス、余が一族の華ドミティア

ラ。

ラステイクス 名門、高位の貴婦人方に、皇帝が尊大に

もあの程度のご挨拶とは合点がゆかぬ。

スラ あなたの奥方には挨拶もなしか。

ラミア いや、心配されるな、いづれご挨拶があらう。

世にでる身でも身は汚される。

皇帝 なれど、美しいドミティア、そなたを目にした時、

二人にはジュピターとユーノーの出会いが望ましいと思えたことだ。タイタン族の死屍累々たるフレグリア

の野で、勝利をおさめたジュピターがユーノーをしつ

かと抱き、並みいる麾下の神々も拍手喝采したそうな。

ラミア、ドミティアを余がものにするはそちにも光栄

なことぞ。

ラミア 異の唱えようもございませぬ。

皇帝 余の不興を恐れ余が寵を良しとする者、理由なぞ詮索せずと、皇后となるドミティアに祝意を表するが

よい。余がくちづけで皇后たることを証しだてよう。

ドミティア 皇帝にお仕える身に変わりはございませぬ。

一同 ドミティアヌス大帝のお妃、皇后万歳!

皇帝 パリス、余が手を。

皇帝 パリス、余が手を。

皇帝 パリス、余が手を。

皇帝 パリス、余が手を。

パリス 恩寵、永遠に陛下のうえに。

皇帝 戦が終わり武装も解いた今こそ、優雅な遊びを楽しもうぞ。時も忘れて楽しむよう、プランをたてよと詩人に告げよ。詩人の才能、創意を存分に發揮せよとな。諸子はそのプランを実行するのだ。余は臣下にありとあらゆる楽しみを与えてやるぞ。——余がドミテア、余はそちに溺れても甘やかしはせぬ。——さあ、神殿に参るぞ！浮かぬ顔をする者は死罪だ。君主たる者、万人を支配し何人にも左右されぬ者だわ。

(退場)

第二幕

第一場

フィラグウス、パルティニウス登場。

フィラグウス 倅が父親に指図だと！ 親には従うのが子のつとめ、わしのやることにつべこべぬかすな。

パルティニウス 金がなくて父上の財産をわたしが狙ったのでしたら、それとも、父上のお歳を数えて長生きな方、などと不遜なことを考えましたのなら、父上がお叱りになるのもごもつともなこと。父上を思つてこのお願いがこちらの欲得ずくと思し召すなら、駄目だとおっしゃって下さい。黙つて引き下がり今後二度とお騒がせいたしません。

フィラグウス 富の神様ブルトス様のみ名にかけて聞か、いったいぜんたいわしにどうしろというのだ？

パルティニウス ご自分の衣食の件です。わたしにおまかせ願ひませぬか。父上、汚れた帽子にぼろぼろの外套、穴のあいた靴と垢でてかてかのシャツ、父上のように財のある方には似合いませんぞ。わたしは父上の

厄介者にすぎませぬが、父上のあの財産でしたら、属領からの戦利品の宝石をちりばめた、ペルシア産の絹の衣装、しかも最高のものを身にまとい、毎日毎日緋のローブを取り替えることもできますでしょうに。

フィラグウス 大馬鹿者め！ お前の話を耳にすると金庫の金も溶けてしまうわ。緋のローブだと！ たわけ者！ わしの後継ぎが反物屋か、仕立屋か？ 宝石商人の儲けを目にしるとな？ 何の、わしは世間体なぞ気にはせんからな。

パルティニウス でも、世間の常識というものがありませんから。服装はお代えにならぬとしても、食物のことだけはせひとも聞いて頂かねばなりません。かびの生えた黒パン、たまねぎ、にんにく、奴隷の飲み物の水、こんな粗末なもので腹を脹らませて良しとなさいすな。

フィラグウス このわしにローマきつての道楽者、アピシウス、ルクルスになって、贅沢なソースとやらにでも財産を遣いはたせとぬかすのか。自然の女神はな、足らざるをもって満足となさるのじゃ。この教えを守っておれば間違いはない。

パルティニウス だが父上は、ああ、日々目している

お姿を口にするのも恥ずかしい、不注意のあまり健康な身体で自然の女神の教えを守ることができぬではありませんか。葉代まで惜しんだあげく、リュウマチ、カタル、かいせん、関節炎に五体を蝕まれておいでだ。金を太らせて命を縮めていらつしやる。さして値もはらぬ通じ葉や戻し葉、きちんとしたダイエツトで長生きできるといふものを。陛下の侍医にきて頂きましょう。

フィラグウス わしはな、やつれ果てた姿でこそ、この身体を燃やし終える火に運んでもらいたいのだ。やぶ医者のかれる錠剤、強心剤、ねり薬、シロップ、ジュレップ、まさかユニコンの角が材料じゃあるまいが、獣の肝から取った解毒剤、何でもわしに盛るがよい。わしの喉は何だろが飲み込む下水管でわけか。もうけりはついた。いやじゃ、わしは大事な宝の山を崩しはせんぞ。わしの若さと力を注ぎ込んで少しでも高くとせつせと積み上げたものだ。いささかでも傾げば、ああ、その時はわしの心の糸は、ぶつ切り切れてしまわぬ。死ぬまでお宝を愛で抱かせてくれ、わしの命、魂、わしの全てなのだから。だがな、わしが土に還りローマ中の祭壇が香を手向ける八百万の神々よりもわ

しには尊いお宝に別れを告げる時には、おまえがわしの想いを引き継ぐのだぞ。わしに倣って父の偶像に仕えるのだ。

(退場)

パルティニウス けちに徹するのも一種の拷問だな！
けちで大金持ちの老人か、誰だってタンタラスの話、おいしい餌をたくさん背においながら道端のアザミを食べるロバの話、あれを思いだすさ。親父がどんなにひどいありさまか、納得させるには何か手をうたねばならん。

パリス登場。

パリス 失礼ながら、陛下のご機嫌はいかがでございますでしょうか。お側に控えよとのご命令でして、陛下の今夜のご機嫌のほどをあなた様におうかがいするのです
が。

パルティニウス パリス殿、お教えするまでもないこと。つとにご存じのはず、ご隋意に参られたがよい、陛下はいつでもあなたの話をお聞きになりましょう。

パリス わたしの至らぬ科とがもお許し下さる陛下には衷心

より感謝いたしておる次第です。ただ、ご寵愛に甘えずぎれば、電光に打たれて死ぬことにも。僭越ながらあえて申し上げれば、わたしは陛下の寵を良いことに、無実な者を讒訴したり、陛下のお怒りに乗じたりはいたしておりません。

パルティニウス 余人には望むべくもないあなたのお仕事は万人が認めありがたく思っております。あなたの方で助けて頂かねば、多くの生命が陛下のお怒りに失われていたことでしょう。面と向かつては褒めこ
とばもこれくらいにしておきますが。

パリス あなた様はいつも良い保護者でいて下さる。ご庇護を頂くのはまことに幸運の至りですが、この卑しき下部も芝居の才にはいささかの自負ありとお認め下さいまし。

パルティニウス 申されるまでもないこと。ところで、父に会われましたか？

パリス はい、昨今のお父上の姿、お目にするのもつろうございます。お手当てが適いませんでしようか？

パルティニウス ああ、パリス殿、そのことが胸の重いつかえなのです。この右腕を断つてつかえが取りのぞけるものなら、右腕を断つてもかまわぬ。なのに、父

はどんな説得にも耳をかそうともせぬ。

パリス 失礼ながら一案がございます。かつて上演いたしました悲劇で人殺しを真にせまって演じましたところ、観客の中に犯人がおりまして、こ奴が迫真の演技にほだされて良心の仮借に耐えきれませず、拷問にかけても口をわりませんでした罪を白状したことがありました。お父上に舞台で強欲者をお見せして、そ奴を鏡にお父上が自らの異形をお認めになり己れが姿に嫌悪なさいますこと、ないとは申せませすまい。「しみつたれの直し方」とでも題する喜劇の上演許可を陛下にお願いして下さいませ。そうそう、お父上にも観よとお命じ下さるよう。お父上の特徴を微に入って表現しご本人そっくりをお目につけ、自虐的な性格の虚しさをとことん演じまして、その芝居がお父上にご反省をうながすようにいたしたいと存じます。

パルティニウス (パリスに金を渡す) 上演料です。またとないで助言を頂戴した。早速ご手配願います、後はこちらにおまかせを。

パリス お望みの時いつなりと舞台に立ちましよう。

——陛下のおでましです。

(退場)

皇帝、アレティヌス、護衛登場。

皇帝 余に不満とな？

アレティヌス もつと危険な事態です。でないとしても、あの男を厳しく見張っていた密偵が情報にたぶらかされたことに。(書類を渡す)これが不平の徒のリストです。ユニウス・ラスティクス、パルフィリウス・スラ、それに例のエリウス・ラミア。陛下の凱旋行進を見せ物とからかい、深夜に集まっては哲学者パエトウス・スラシアを処刑なさったお裁きを非難し、スラシアと共に正義も殺された暴政の世と弾劾したとやら。連中はブリタニア総督アグリコラの一件もむし返す。アグリコラがブリタニア統治の功がありながら毒殺されたのだ、遺言状にも遺言状が効力を発するよう、娘と並べて陛下も相続人と記さねばならなかつた、陛下の名前がなかつたら無効になる恐れがあつたからだなどと。また、陛下のユリア様への愛は近親相姦であり、兄上ティトウス様をないがしろにする振る舞いと断じている。皇后の名誉をお与えになつたご婦人、無理やり署名させられたラミア、二人の離婚は名ばかりのものであるとして、貞女クレティア、悲運の夫

コラティヌス、暴君追放の勇者ブルトウスの名をひき、この離婚をルクレティアの悲話にたとえる。そして、今の世にかつてのローマ人はおらず、陛下にはルクレティアを犯した卑劣漢タルクイニウスの欲情あるのみと締め括つたとのこと。

皇帝 そのような罵詈雑言をほざきおるとは、余が無限の権力を抑えられるとも思うてか。ラミアめは、余がものと言言した女性に権利があると申すか。余がものを自分のものぞと忘れかねてか。ラミアをここへ引いて参れ！

(護衛退場)

彼奴に妻の名を口にするよりは、自分の名を忘れた方がよいと願わせる理由を与えてやる。余に限界があるか？ 行動を力で正当化できぬ者は、汚い手だが、己れの罪を隠し、ごまかし、言い訳せねばならぬ。余が欲望が許し特権を与えたものは、天上の掟、ローマ建国時のロムルス大帝、ヌマ大帝が定められた法に背こうが、崇められねばならぬ。

アレティヌス さもなければ、陛下の威厳が損なわれましよう。

皇帝 二百三十余州を統べる君主、平らげた諸国を畏怖

させる余が余自身の没面にいらだつとはな。凡人の一人に余が快楽の申し開きをせねばならぬのか？ ローマが瓦解すれば、巨人アトラスの肩もすばみ、天井の枠組みも崩れ落ちよう。余が過ちの是非をつけよと余が告白する前に、太陽も月も星も熱や光を失うのだ。

アレティヌス 陛下の権力をお望みどおり維持なさいませ。天上にはジュピター、地上にも全能の皇帝陛下。

(パルティニウスが跪いて皇帝にささやく)

皇帝 パルティニウス、皇后の件では大儀であった。その願いは何なりと許すぞ。それだけか？ 訳もないこと。父親を召すがよい。その喜劇とやらで癒すこと適わねば、余も一言加えるとしよう、父親が金なぞ忘れ自らに想いを致すような命令をな。

パルティニウス 親を思う気持ちから出ましたもので、この目論みがうまくいくよう切に念じおります。

(退場)

皇帝 余が腹は決まったぞ、アレティヌス、これ以上探るな。皇后のもとにおもむき伝えてくれ、余が懇願だ、——万人が従う男を従わせる女性にはこの言葉が相応しかろう——余がこのように手をあげれば、かしの窓辺で美しい声を聞かせてくれとな。

(アレテイヌス退場)

残忍にいささかの嘲りを混ぜるとするか、さもないと、残忍にも味がないわ。予期せざる時ほど復讐の力の大なるはなし。微笑に隠された憎悪こそ、何の備えもない愚者を恐怖で打ち殺すものぞ。

ラミアが護衛に連れられて登場。

おう、ラミア、よくぞ参った！ そちには進んで余が意に伝えてくれた借りがある。世の儀礼などにとらわれずに生さんとする余ではあるが、そちへのお返しをどうしたものか悩んでおるわ。

ラミア 陛下のみ手で王者の威厳と徳を持つにいたる方便をつかまれましたはご運の強さ、ご負担に思われますな。

皇帝 まあ、よかろう。だがな、礼をせぬわけにもいくない。なあ、ラミア、ドミティア献上の代価はこの帝国にも値いしようが、帝国は二つに分かちては何の価値もありはせぬのだ。楽しみごと全てを即座に断ちきったそちが、ドミティアの美しさに包まれた快楽の宝庫を、皇帝にこそ相応しい贈り物として強いられる

ことなく、余に差しだしたのだからな。そちの目に宿るは悲しみではなく喜びの涙ぞ。そちの行為を良しとする証拠だわ。

ラミア 嘲笑なさるか！ 陛下、この涙は――

皇帝 余がお返し以上のものか。礼を申すぞ、ラミア。ドミティアの唇から味わう心とむ美酒の一滴一滴が、祝福された酌み手には永遠不滅の味を残すのだ。あの魅力、美しさを正しく評価すれば、代償として執政官一人の生命なぞ安いものぞ。うっとりする言葉、ほれほれする立ち居振る舞い、日々聞くことができ見れるとあらば、余は五官のうち目と耳があればそれでよい。閨の快楽は閨に閉じこめ、外の大気にも触れさせまい、余が幸せを妬む神々の宣戦布告が風につて舞い込むであろうやもしれぬ。

ラミア わたくしめの逆運を誹るまいとの陛下のお心遣い、いや、陛下にはなぶつておいでやもしれませぬが、そのお気持ちのほどは、陛下が挑戦なさった神々の怒りをも鎮めるものでございましょう。陛下はドミティアを讀えるあまり、神をも恐れぬ言辞の数々はありましたもの。

皇帝 余がドミティアを讀える言辞だと？ 讀えたいと

願うておつても、まだまだ言葉が足らぬは。褒め言葉とはな、ドミティアだけが棒引きできる借金、他人の舌では帳消しできぬものよ。

(階上より歌と音楽)

聞くがよい。そちに今一度歌声を聞かせよとの、余の意をうけて、ドミティアが歌いおる。——宇宙の静謐この場を充たせ！音たてて歌声みだす者は拷問のうえ死罪ぞ。

(歌声が終わり、皇帝の話が続く)

何人もこの歌を聞けば跪いて敬うであろうな。余が思うに、太古の昔アポロを審判としてラトモスの丘で行なわれた歌比べで、髪麗しき女神カリオーペが象牙のリユート、いや、ドミティアのリユートには及びもつかぬものだが、そのリユートに合わせてセレーを讀えて歌うた歌、それに、プルートのプロスペリン掠奪の恐ろしい歌もかくやかと。ドミティアの歌声がしたただけで、天球の動きもとどころう。ラミア、いかがじゃ、あの歌声こそまさに天使の歌声であろうが。

ラミア 陛下のお耳には。ああ、後は申せませぬ。

皇帝 この歌声に接しても褒め言葉の一つもなしか。では、今後いっさいもの申すな。余の至福に悪意を抱く

そちを口が利けぬようにしてやろうぞ。余が帝国よりも大事に思うドミティアを、不遜にも取り戻さんとのそちの仇^{かたみ}ごころ、その罰としてそちを叛逆罪で刑に処す。——(護衛に)首をはねよ！何を驚いておる。余は神々の像のうち、ミネルバの像こそ心より崇めおるが、その守護神ミネルバに誓つて、万が一ラミアが生き延びることあつて口を利こうものなら、貴様の命でカタをつけさせるぞ。

(護衛がラミアの口を手で抑え引立てて退場)

あの男への懸念もこれで消えたわ。余が欠点を非難するのに汲々の輩が、己れの傲慢が墓穴となつて夢想だにせぬ罪名で除かれおつた。

(ドミティアに)愛しい女、降りてくるがよい。これで、妻に疑惑、嫉妬を抱く夫も世になくなるう。けりがついたな、もはや何の問題もない、蠅一匹ひねりつぶすようなものだ。

アレテイヌスに先導され、衣装の裾をユリア、カエニイス、ドミテイラに恭しく保持されて、
ドミティア登場。

やつと現われたか。そなたに相応しい栄光に包まれて。そなたに付き添うだけでも名譽なことだぞ。ユリア、テイトウス帝の王女は忘れるように。カエニイス、ドミティア、二人ともウスパシアヌス帝、サビヌス殿のことは思いだされるな。ドミティアの奴隷でいる方がパルティアやアジア諸国の女王になるより、はるかに自由の身というものですぞ。例えていえば、皆は光り輝く月に待る小さな星ほしのようなものなのだから。

(ドミティアに) さあ、余の傍に座られよ。この者たちを意のままになさることだ。かつては世の華とうたわれたが、今はそなたの召使いたるを証すべく、そなたの足もとに控えておるわ。

ドミティア 陛下のお気に召しましても、傲る気にはなりません。でも、皇后の地位に思いをいたせば、皆様が果たして下さるご奉仕は、陛下が名譽を与えたもうた女性には当然の儀礼として、お受けいたさねばと。

フィラグウスを連れてパルティニウス登場。

パルティニウス 陛下のご命令でお連れしたのですから

否とは申せませぬぞ。

フィラグウス 芝居を観るなぞ時間の無駄じゃ。いやなものに金まで払うのか？

パルティニウス 宮廷では見物料なぞ要りませぬ。陛下のご負担です。

フィラグウス それなら拷問も少しは楽だな。

皇帝 パルティニウス、この卑しい老人がそちの父親とな？ この老人を演じられる役者はおるまい。実物を目にせぬから、絵空ごととは舞台では無理と思うていたが。

(フィラグウスに) まあ、静かに座らぬか。よく観るのだぞ。頭をたれば眠りばなしであろう。——プロローグは無用、余に捧げる儀礼の言葉も省け。医者の治療が存分に観られる終幕にとぶがよい。ドミティア、過ぎゆく一瞬も余には長い歳月に覚ゆるぞ。そなたはこの腕に抱けぬのだからな。そなたに対する余が想いは満たされるたびに募りおる。他の快樂すべてがつまらぬものよ、らちもない愚痴と同じだわ。くちづけを——いま一度。若者の熱は余に失せたとして、燃ゆる火のごときそなたへの熱い想いが、トロイの老王プライアムの血脈に流れれば、老王の凍てついた血も溶け、

トロイ防衛のため第二のヘクトルを産み出すことであらう。

ドミティア 淫らなことを！ お止め下さいまし。お芝居を観なくてはなりませんわ。

皇帝 幕を上げい。

医師に扮したパリスとエソプス登場。鍵を口にくわえ、椅子にもたれて眠っているラティヌスが運びこまれる。

エソプス 先生、父には手の施しようがありません。眠り病にかかっております。死んだように眠りかけておりますが、使う術テクニクを知らぬ財産をしつかと守る意識だけはしつかりしたものです。

パリス 口にくわえて離さぬもの、あれは何でしょう？
エソプス 鉄の金庫の鍵です。金庫には長らく閉じこめて錆がつき浮かぶ瀬のない金貨でいっぱいにして。息子のわたしにも、鍵をどなたかにお預けしたらと説得する義務はありませんし、父が信頼するお友だちもおられませんか。

フィラグウス あの爺さんの方が頭いいぞ。わしらは同

じ穴の貉という訳かい。

エソプス 鍵が糧なのですから。父は神々のうちで富の神マモンだけは崇めておりまして、今でも多少はあります信仰心からマモンの社に鍵を口にして参ります時、父の祈りの言葉は報われるのです。父は、ローマの財宝全てを抵当にするから暫時その鍵を貸せよと迫られても、鍵を手放すことには肯んじますまい。

フィラグウス ますますわしそっくりだ。わしみたいに金を貯めるのなら、抵当なんぞあてにしてはいかん。

パリス 力づくで鍵が取れるものならやってみるが、無理だな。溺れた男が藁でもつかむように、欲の一心で最後のあがきに、後生大事と崇めとるものにしがみついている。できることなら、あの世まで持つていきたいということか。

フィラグウス わしもだ、この世に残すくらいならあの世に持つていくからな。

エソプス 父は死んだのでは？

パリス まともな人間でしたら、善き行いをし、ほかの人にも尽くし、また己れ自身のためにも善い生き方をしたいと願うでしょう。この老人はその意味ではずっと前から死んだも同然だったのです。きつくつねって

ごらんなさい、爪の下を針で突いてみてもよい、ぴくりとも動きません。生命より大事なものを手放す恐れで身体感覚も失われていますから。心の奥底の眠った箇所、眠り病の冒している部分を覚醒させる処置が必要でしょう。トランペットを耳もとで吹き鳴らしても無駄、轟きわたる雷鳴も目覚めさせることはできません。だが、ご心配なく。最後の切札がありますから。

エソプス どういう手ですか？

パリス 老人の心の奥まで忍び入る恐ろしい夢を見せてやり、夢のもたらす恐怖で心にショックを与えるのです。そうすれば、身体金縛りも解けましょう。

ドミティア ずるい役者だこと。医師になりきるのなら、お芝居の科白どおりに、まず貴婦人のわたしに礼を尽して、わたしが眠らぬようパッチリ目があくように努めるべきなのに。

(金庫が運び込まれる)

パリス これがだめでしたら、手を引きます。よろしいか、ぶつたいたいででも鉄の蓋を開けるのですぞ。老人の生命はがんじがらめになって金庫箱の中にある。生命より大事なものを取り出してやれば、生命も戻り身体

中の血管にも生命が充ちてきましょう。気合いを込めて、さあ！ 開いた、ほれ、老人が身動きした。どこが問題か、よくご覧になって。

(ラティヌスが身体を伸ばす)

フィラグウス 陛下、この正直者、儉約家をお助け下さい！ あの連中は盗人です、金を盗ろうとしております。

パルティニウス 静かに！ 陛下がご不興ですぞ。

パリス それ、金貨の袋をテーブルに積んで、宝石も証書もだ。もう一度、今度は妙なる鐘の音を聞かせる。

目が開いた。じつと見ている、メドウサの頭を見て石になったかのようにだ。今一度、鐘の音を。

ラティヌス 人殺し！ 人殺し！ わしを殺そうとしおる。倅の仕業か？ お前は並の親殺しよりもつと悪だ！ 復讐の女神がお前を地獄で責め苛むぞ。お前には当然の拷問だな、父親の身体を殴って死に至らしめ、父の魂まで卑劣な手で傷つけたのだからな。わしの金を、証書を、宝石を！ 父が日がな一日、財産を愛でるのが嫉ましいか？ 芯まで燃えつきた父が生命の蠟燭の火、これまで消そうとするか？

パリス 自分の身を案ずるようではありませんな。

ラティヌス お前に財産を残そうとして、わしは人様の楽しみごとを己れには禁じてきた。爪に火をともしてせつせと宝の山を築いたのだ。アテネの名宰相ソロンがわしの財産を目にしたなら、世界一の長者と称したリディアのクローウス王も彼の目には、乞食イルスと同じに映つたであろう。それでも、もつと高く富を積まんとしたわしはな、いつもいつも断食に近い暮らしで腸がきりきり痛もうが、腹の虫が悲鳴の大声あげようが、かまうことはなかつた。それもこれも、腹の虫をおさえようと小銭でも使えば、わしの後継ぎが恨むかと考えたからだ。外面をかざる衣装代もきりつめて、凍てつく冬の寒さ夏の焼くような暑さに、この裸の身体を曝してきた。病に冒され少々の金をだせば回復するという時でも、わしはな与えられた運命の道を急いで、灰にしたわしの骨を骨壺に入れてもらいたいと願つたものだ、わしの目の黒いうちに放蕩息子がすぎ勝手にばらまいて金を減らすよりはな。

エソプス 急いであの世に行きこの世とはきつぱり縁を切ってもらいたいものだ。あなたの魂とやらには、かつてあなたの主人だった財産は今やわたしの奴隷だと、地獄で感じてもらいましょう。

フィラグウス 失せろ、悪党め！

パリス あなたの飢えた身体が忘れられた灰に変わつてしまえば、あなたのご苦労、心配、悩みごとはどうなりますか？ この若者にしても、あなたの墓に小便ひっかけ、あなたのご苦労がどんなであつたかと思ひ出すのですか。自分の遊び仲間、あなたにとってはこの世の地獄でしような、親父が道楽者になれ、欲望を満足させよと、莫大な財産を遺していったなどと触れまわるでしょう——あなたがご自分には決して許さなかつたこの世の快楽ですが。となると、苦心惨憺して得たお金、血のじむ苦労で守つた財産、これが、女郎、ぼん引き、やくざ者を養うだけのものとなる。しかも、この手合いは、おいぼれは長生きしたぜなどと、あなたの悪口を酒の肴にがぶ飲みするでしょうよ。

ラティヌス そうなるのだらうな。わしにもよくわかる。ああ、過ぎた時間が取り戻せたら！ 自分の思いのままに生き、死んでいけたらなあ。わしがせつせと蓄えたものをおもうさま使いまくつてだ。

パリス 棺桶に片足つつこんだ強欲者は皆そう申しますな。だが、よろしいか、わたしが秘術を尽くして絶望的な病いを癒し、寿命も十年が余も伸ばしてさしあげ

よう。お身体も健康体に戻してあげる。お心は自分で正す覚悟がおありでしょうか？

ラティヌス 心あらためて生きる覚悟です。何の、倅がわしが長生きしたなどとはぼす理由があるもんですか。財産は倅に手渡しです。それに、倅もわしに冷たくはないのですから。

パリス 望みを持ちなされ。医者の中様アポロの助けを借りて、あなたのガタガタの身体を直しましょう。父親を憎む息子、お宅は違います。真相を明かしますと、あなたに施した治療方、みごとに所期の目的を達しましたが、ちゃんと息子さんも同意なすつていたのです。「しみつたれの直し方」をお目にかける計略でした。

(パリス、ラティヌス、エソプス退場)

フィラグウス あの馬鹿親父、虚仮こいつにされおつて！ あいつが、わしが決心しとるように、なまじ気を変えずに死んだのなら、芝居の終わりはもつと余韻が残つたものを。

皇帝 ドミティア、そなたはこの芝居、役者のできをどう思う？

ドミティア このような主題の芝居好みませぬ。わたくしもローマの詩人たちの作には目を通しております

が、この芝居はホラティウスの剽窃でございます。ただ、ヴィーナスに誓つて申しますが、医師を演じました役者の演技は素晴らしいものでした。朗々とした声、巧みな言い回し。でも、わたくしの感じでは、あの役者、恋する男の役こそ適役かと。陛下、この手の芝居はもう結構でございます、明日は悲しい恋の劇を観たうございます。

皇帝 ドミティア、そなたの好むものなら何なりとな。

——ドミティアの世話を。——処置せねばならぬことが一件ある。かたをつけたら、まっすぐそなたのもとに足を向けるぞ。

(アレティニウス、ドミティア、ユリア、カエニイス、

ドミティラ退場)

パルティニウス 恐れながら、陛下、父めにご忠言をお願い申します。

皇帝 何とかやつてみようぞ。父を癒すこと疑ごうな。

——さて、フィラグウス、吝嗇漢りんしやくかん、そちのまたとない卑しきわかつたか？ 吝嗇漢は破廉恥極まりない者と目にしたであろう。どうじゃ、良心の呵責を感じて真人間に生き変わると意を決めたか？

フィラグウス この疲れきつた身体は陛下に献じまして

も、わしの心だけは――

皇帝 余が怒りをもて遊ぶな。たった今観た芝居を己が身にあてはめられぬか？ そちの生きざまをここで変えて、そちの姿生き写しに演じられた、あの惨めな金持ちをまねる気は起ころぬのか？

フィラグウス 陛下、何卒、このままの生き方で死を賜りますように。わしの金と手は切れませぬ。金はわしの生命でしてな。わしが直ること適いませぬ。

皇帝 何とぬかしおる！ ミネルバに誓うて、そちを二度とけちのけの字も感じさせぬようにしてくれるわ。

この老いぼれを連れ去り即刻首くりにせい。地獄にも金があるなら、地獄で金勘定でもしろ。そちの財産も生命も余が召し上げるぞ。

フィラグウス わしをこうするためのお召しだったのか。

バルティニウス 陛下、わたしの功績に免じてお許しを！何卒、なにとぞ、お許しを！

皇帝 ジュピターが弁護したとてこ奴の死は動かせぬ、余を説得せんと一言でも口をきく者も同じ運命ぞ。さすれば、余に諫止は無用なこと。これは正しい裁きだわ。死も厭わぬなどとことごとにぬかす輩は、余の酷

さよりも己れ自身を恨むことだな。

(一同退場)

本稿はフィリップ・マッシンジャー作の『ローマの俳優』(Roman Actor) (五幕)の二幕までを訳したものです。三一五幕までの訳文と作品解題は次号に掲載いたします。

なお、作者については、『古い借金を新しく返す方法』ならびに『町人奥様』(いずれもフィリップ・マッシンジャー作、筆者訳、早稲田大学出版部刊)の解題を参照いただければ幸いです。